

◎平成31年度以降入学生

●カリキュラム概要

1. 豊かな感性と倫理観を持つ看護専門職者となるために

文学や美術、体育等の科目を通して感性を磨き、倫理学・生命倫理では、個人や社会の問題解決に活用する倫理的判断の基礎や、臨床場面の倫理的諸問題に直面する看護師の責任と役割について学習します。看護専門職者として柔軟かつ論理的な思考力を備えるために、統計学や自然科学を学び、英語を中心とした語学では、看護において必要となる外国語の表現力の向上をめざします。

2. 創造性豊かな看護専門職者となるために

人々の心理や行動、生活習慣等を多角的に理解し、人々を取り巻く社会のありようや法制度、医療経済、保健医療福祉行政等に関する基本的な知識を身につけます。また、人々の健康について理解するために、人体の構造と機能、病態の診断と治療等について学習します。看護の基本となる科目では、看護学の基本やコミュニケーション技術、看護倫理について学び、看護専門職者としての基本的態度や姿勢を身につけます。また、看護を必要とする人々のニーズを適確に判断し、必要なケアを提供できるようになるため、その基礎となる看護技術やアセスメント、疫学等について学び、実習等を通して体験的に理解を深めます。さらに東日本大震災の経験をふまえ、災害看護の基本についても学習します。

3. ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者となるために

人々の一生を支える看護についての理解を深め、様々な場で生活し、あらゆる健康レベルにある人々のニーズに応じた看護実践を展開できるよう、看護実践を支える科目として、母性看護学、小児看護学、成人看護学、救急・クリティカルケア、エンド・オブ・ライフケア、老年看護学、精神看護学、在宅看護論、地域包括ケア論、地域看護学についてより専門的に学習します。これらの学習をふまえ、看護実践として実習を実施します。さらに、看護を統合する科目では、チーム医療論、看護管理学、看護政策論、災害看護学、国際看護学、看護研究について学習し、地域の保健医療福祉に貢献する看護専門職者として育成します。

●評価方法

履修した授業科目の成績は、「**福島県立医科大学看護学部履修規程**」に基づき、筆記試験、レポートおよび出席等の方法により総合的に評価します。

●保健師及び助産師の養成（選択制）

さらに、保健師及び助産師を育成するため、保健師国家試験受験資格・助産師国家試験受験資格（いずれも選択制）を取得するための科目を設けています。

豊かな感性と倫理観

創造性豊かな看護専門職

ニーズに対応する実践能力

四年次

三年次

二年次

一年次

医療と法
医療と経済、現代社会論

英語Ⅲ、Ⅳ

英語Ⅱ

英語Ⅰ、フランス語、
ドイツ語、スペイン語、中国語

表現力を培う

社会の理解を深める

社会と医療・福祉・保健、行政と医療・福祉・保健、
社会と法（日本国憲法を含む）

生体防御学、病態栄養学、微生物学
病理学、薬物治療学、病態診断治療学

人間の身体機能と
病態を理解する

人体解剖生理学Ⅰ・Ⅱ
生化学

人間の理解を深める

心理学、生活と科学、
死生観の歴史、
人間関係論、女性学

看護技術とアセスメントⅡ・Ⅲ
看護倫理学、
保健情報演習、疫学、
基礎看護学実習Ⅱ

看護の基本となる科目

看護学の基本Ⅰ・Ⅱ
コミュニケーションに関する技術
看護技術とアセスメントⅠ
災害看護学Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰ

成人看護学Ⅲ・Ⅳ
救急・クリティカルケア
エンド・オブ・ライフケア
小児看護学Ⅱ、老年看護学Ⅱ
精神看護学Ⅱ、在宅看護論Ⅱ
地域包括ケア論、家族看護論
感染看護学、医療安全学
公衆衛生看護学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
助産学Ⅰ・Ⅲ

看護実践を
支える科目

母性看護学
地域看護学Ⅰ・Ⅱ
成人看護学Ⅰ・Ⅱ
小児看護学Ⅰ
老年看護学Ⅰ
精神看護学Ⅰ
公衆衛生看護学Ⅰ

地域包括ケア実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
看護管理学実習、統合実習
公衆衛生看護学実習、
助産学実習

急性期看護学実習
慢性期看護学実習
母性看護学実習
老年看護学実習
小児看護学実習
精神看護学実習

看護の実践

地域看護学実習

チーム医療論、看護研究Ⅱ
看護政策論、看護管理学
国際看護学

看護を統合
する科目

災害看護学Ⅱ
看護研究Ⅰ